No.12 生涯学習の推進〈生涯学習〉 (人権・社会教育課)

令和5年度までにめざす姿

生涯学習のあるまちづくりを進め、豊かな学びを通してまち(地域)を支える人材の育成に努めます。

令和元年度にめざした成果

- ①さくらまつり、生涯学習作品展及びロビー展の開催、町内行事（ふれあいチャリティー芸能大会、ほっとハートコンサートなど）への参加、児童生徒の土曜日の体験活動の実施を通して、健康で心身ともに豊かな町民を増やし、地域の担い手として多様な能力を発揮する場を通して地域の持続的な発展に貢献します。
- ②高齢者学級、女性学級を開催し、生活課題・地域課題の発見と解決に向けた町民の自主的な学びを支援します。

令和元年度にめざした活動

- ①さくらまつり、生涯学習作品展、ロビー展開催。町内行事(ふれあいチャリティー芸能大会、ほっとハートコンサートなど)への参加。(はんどん楽校(年間10回))
- ②高齢者学級、女性学級(それぞれ10回程度)

令和元年度の成果

令和元年度のイベントでは、公民館教室のほか、町内の個人、団体を含め、のべ100組以上の参加がありました。また、町内の中学生・高校生も運営に関わり、新たな地域の担い手として力を発揮しました。
公民館主催の学級では、年間を通して人権、健康、ふるさと学習など、生活の中の身近なテーマで講座を実施し、参加者同士が協働して学習を行いました。

令和元年度の問題

公民館教室では、教室生の高齢化、若年層の参加率の低さが目立っており、文化・技術の継承や持続可能な生涯学習社会を目指すうえでの課題となっています。また、公民館学級では、地域の課題解決に向けた学習の場としての位置づけを高めるとともに定着を図っていく必要があります。

令和2年度以降の方策

(1) 達成できた事項をさらに伸ばす方策

生涯学習に馴染みのない方々にも生涯学習に触れられる機会を増やします。また、地域の子どもと大人をつなげる取組みを強化し、子どもの自己肯定感を育てるとともに、大人には地域の中で「おせの背中を魅せる」きっかけづくりの場とします。

(2) 解決すべき問題への方策

公民館が「若年層が主体的に活動できる場」となるよう、公民館事業に高校性サークル、青年団などの若者が参画できる機会を増やします。また、地域の課題解決を目的とした学習内容に取り組み、生涯活躍できる人材の育成に努めます。

(3) 新たに取組む方策

生涯学習に精力的に活動する大人と若者とのつながりをつくるため、地域の若者の代表である高校生サークルや青年団が計画・立案から主体的に関われるようイベントの運営方法を見直します。